

「精神科・心療内科なのになぜ血液検査が必要ななの？」

と疑問に感じる方もいるのではないのでしょうか。血液検査に苦手意識があって、通院をためらう方もいるかもしれません。当院に通院中の精神科・心療内科患者さんの血液検査について、「なぜ必要なの?」「どんなことがわかるの?」等についてご説明します。

血液検査は担当する医師がその必要性（特に初診時）や間隔（3カ月から6か月に1回の事が多いです。）を判断します。

1. 診断と治療方針を決める上で重要です。

1-1. 精神科・心療内科では初診の際に血液検査を行うことがあります。心と身体の症状は互いに密接な関りがあります。内臓の不調によってうつ症状などが現れることもあります。様々な内臓の状態や病気の可能性があるかなど、血液検査で分かることも多いため、診断や治療に役立っています。例えば、しばしば精神症状を伴う甲状腺機能障害(バセド一病や橋本病など)では、甲状腺ホルモンを測定することで、甲状腺機能の状態を知ることができます。動悸・息切れ・めまいなどが、貧血症状であることもあります。その他、感染症や腫瘍、肝機能障害に伴うせん妄、膠原病に伴う精神症状など多岐に渡ります。このように、様々な疾患を事前に見つけるために血液検査は大切な判断材料になります。そうすることで、患者さんにとって最も適した治療を迅速に行えますし、治療期間の短縮にもつながります。

もし、他院ですでに検査を受けられている場合や最近受けられた健康診断の結果をご持参いただければ、検査の一部または全部を省略できる場合がありますので、資料をお持ちの際はご持参ください。

1-2. 薬の血中濃度を把握する

精神科・心療内科では初診時だけではなく、定期的に血液検査を行うことがあります。その理由として投薬管理が挙げられます。治療薬の種類や量を決める際に、血中濃度のデータが必要な場合があります。精神疾患の薬（特にうつ病やてんかんの薬など）は、患者さんの血中濃度によって量を決定するものが多いからです。最も安全で効果が得られやすい量を検査結果によって決定しています。

1-3. 副作用を防ぐため

もう1つの理由は、精神科・心療内科の薬を内服中の患者さんの糖尿病・高血圧・高脂血症の悪化や肝機能・腎機能障害、甲状腺機能障害、性機能障害、薬剤中毒症状などを事前に防ぐためです。

2. 血液検査を行った場合の費用

原則的に保険適応です。内服中の薬や検査項目によっては自立支援医療も適応されます。初診の場合、保険診療（3割負担）の場合、診察費用は2,000円～3,500円ほどですが、血液検査の検査が加わると、5,000円前後が目安です。同じ血液検査でも検査項目によって異なります。

ご不明な場合は気軽にお尋ねください。

いのうえ内科クリニック 院長